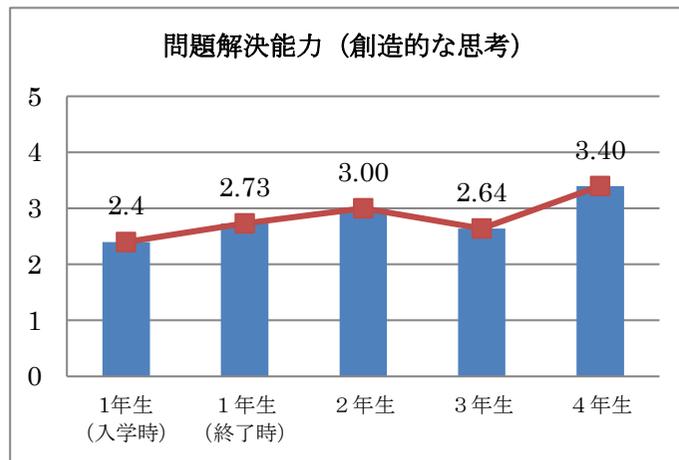
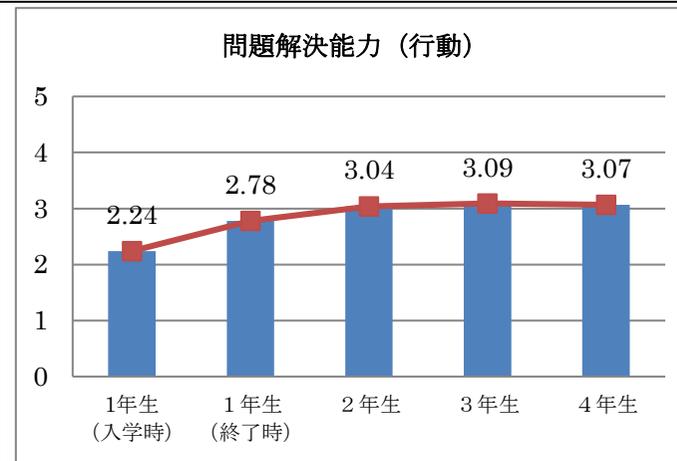
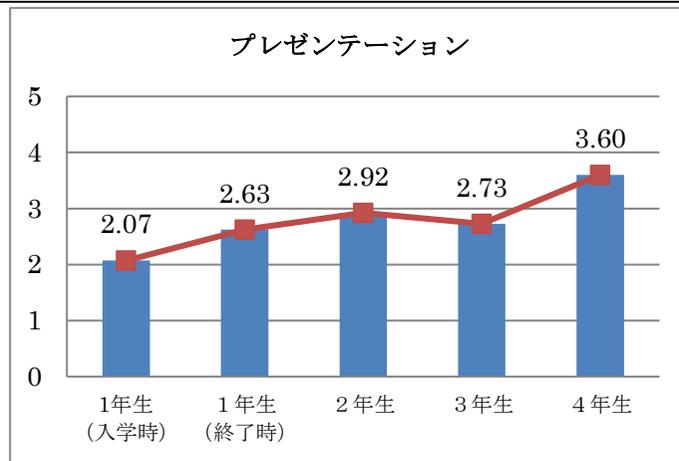


マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学修成果の把握（学科／研究科専攻の学位授与の方針）」のデータを活用した検証です。  
 学科の学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）については、本学ホームページの「教育方針」（下記のURL）をご覧ください。  
<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻	検証の結果																								
情報福祉マネジメント学科	<p>情報福祉マネジメント学科では学生の学修成果の把握を目的に、ルーブリックに基づいて、「1. 情報科学に関する知識・技術・理解」「2. データ処理とそのプロセス評価」「3. プレゼンテーション」「4. 問題解決能力（行動）」「5. 問題解決能力（創造的な思考）」の5項目を5段階評価で調査した。なお、回答数は1年生96、2年生26、3年生11、4年生15である。</p> <p>その上で、各項目に対して5段階を1～5点に換算した際の各学年の平均値をまとめて図示したものが以下になる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="427 667 1106 1123"> <p style="text-align: center;"><b>情報科学に関する知識・技術・理解</b></p> <table border="1"> <tr><th>学年</th><th>平均値</th></tr> <tr><td>1年生 (入学時)</td><td>2.11</td></tr> <tr><td>1年生 (終了時)</td><td>2.64</td></tr> <tr><td>2年生</td><td>2.73</td></tr> <tr><td>3年生</td><td>3.00</td></tr> <tr><td>4年生</td><td>3.40</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="1122 667 1800 1123"> <p style="text-align: center;"><b>データ処理とそのプロセス評価</b></p> <table border="1"> <tr><th>学年</th><th>平均値</th></tr> <tr><td>1年生 (入学時)</td><td>2.02</td></tr> <tr><td>1年生 (終了時)</td><td>2.63</td></tr> <tr><td>2年生</td><td>2.92</td></tr> <tr><td>3年生</td><td>3.00</td></tr> <tr><td>4年生</td><td>3.60</td></tr> </table> </div> </div>	学年	平均値	1年生 (入学時)	2.11	1年生 (終了時)	2.64	2年生	2.73	3年生	3.00	4年生	3.40	学年	平均値	1年生 (入学時)	2.02	1年生 (終了時)	2.63	2年生	2.92	3年生	3.00	4年生	3.60
学年	平均値																								
1年生 (入学時)	2.11																								
1年生 (終了時)	2.64																								
2年生	2.73																								
3年生	3.00																								
4年生	3.40																								
学年	平均値																								
1年生 (入学時)	2.02																								
1年生 (終了時)	2.63																								
2年生	2.92																								
3年生	3.00																								
4年生	3.60																								



各グラフからは5項目何れにおいても、学年が上がるほど平均値が高くなる傾向がみとれる。したがって、学修は適切に進展していると判断できる。特に、4年生の段階で平均値の上がり幅の大きい点については、ゼミならびに卒業論文が奏功していると考えられる。他方、他の項目と比較して、問題解決能力(行動)については2年生以降の平均値の増加が小さく、また、問題解決能力(創造的な思考)については3年生の平均値が著しく低い点が見られ、これらに関する自信のなさが見て取れる。このため、これら2点について改善する取り組みが来年度の課題である。